

# グローバル・スタディーズ研究センター

## 2023 年度プロジェクト

---

2023-1

2023 年 6 月 13 日（火）開催

スポーツ・武術のグローバル化 講演会「スポーツを通じた社会的包摂——ムスリム女性を対象にして」（6 月 13 日開催・学内者対象）のお知らせ

このたび、静岡県立大学国際関係学部主催、本センターの共催で、関西学院大学の安達智史先生をお招きし、学内者を対象に、ムスリム女性とスポーツをテーマに社会的包摂のあり方を考える講演会を開きます。対面参加も ZOOM 参加も可能です。みなさまふっつてご参加ください。

日時： 2023 年 6 月 13 日（火） 9:00-10:30

会場： 草薙キャンパス 3315 教室（Zoom 併用）

対象： 静岡県立大学学生・教職員

講演会の参加方法について

【対面+Zoom 併用で実施します】

草薙キャンパス 3315 教室でご参加いただいても Zoom でご参加いただいても結構です。

【Zoom 参加の場合】

Zoom でのご参加の場合は、事前登録をして Zoom 情報を受け取っていただく必要があります。以下のページからご登録ください。

<https://bit.ly/0613lecture-zoom>

Zoom 参加登録時のご注意

登録しても Zoom 情報がメールに届かない場合は、ご登録のメールアドレスが受信拒否している可能性があります。その場合はまず SPAM をご確認の上、見つからなければ別のアドレスで再登録してください。それでもうまくいかない時は下記の問い合わせ先にご連絡ください。

主催： 静岡県立大学国際関係学部

共催： 静岡県立大学国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センター

2023年度学部研究推進費「スポーツ・武術のグローバル化と社会的影響に関する領域横断的研究」(共同研究者:坂巻静佳・孫暁剛・富澤かな・奈倉京子)の助成を受けて開催  
問い合わせ先 富澤かな (t-kana@u-shizuoka-ken.ac.jp)

#### 講演会概要

スポーツは、心身の健康とともに、喜び・自律・幸福といった「人権」の条件と不可分に結びつく活動である。だからこそ、スポーツへの参加は社会的包摂の重要な一部と考えられている。現在、「スポーツを通じた包摂」の対象として政治的アジェンダに置かれているのが、ムスリム女性である。イスラームと女性のスポーツ参加との関係は、アンビバレントなものである。一方で、イスラームにおいて、スポーツや身体活動は、女性も含め推奨される行為とされている。だが、他方で、現実には、ムスリム女性のスポーツ参加の割合は低く留まっている。では、その理由は何であり、また彼女たちの包摂には何が必要だろうか。本講演では、ムスリム女性のスポーツ参加をめぐる現状、スポーツを通じた国際的な環境変化、ムスリム女性のスポーツ参加を妨げる多様な要因について議論することで、信仰、ジェンダー、スポーツの間にある複雑な関係について紐解いていく。その上で、社会的包摂の多様な形について検討する。

#### 講師プロフィール

安達智史 (あだち さとし)

京都府出身。専門は、理論社会学、政治哲学、宗教とジェンダー。研究テーマは、ヨーロッパの社会統合研究、ムスリム女性のジェンダー意識と信仰をめぐる国際比較研究。近年、スポーツと宗教の関係を、イスラーム、女性のエージェンシー、ポスト世俗化をテーマに探究している。主な著書に、『リベラル・ナショナリズムと多文化主義』(勁草書房、2013年)、『再帰的近代のアイデンティティ論』(晃洋書房、2020年)、Muslim and British post-9/11 (Trans Pacific Press、2023年)。受賞歴として、日本社会学会奨励賞(論文の部、2011年)、同奨励賞(著書の部、2021年)など。



©Giorgio Montersino



©ChrisGoldNY



©Singapore 2010 Youth Olympic Games



©Rod Waddington

スポーツ・武術のグローバル化 講演会

# スポーツを通じた社会的包摂


——ムスリム女性を対象にして

2023年 6/13 火 9:00~10:30

会場 | 草薙キャンパス 3315教室 (Zoom併用)

対象 | 静岡県立大学学生・教職員

Zoom参加の場合は事前登録が必要です。  
 詳しくは以下をご覧ください。  
<https://bit.ly/0613sports>



スポーツは、心身の健康とともに、喜び・自律・幸福といった「人権」の条件と不可分に結びつく活動である。だからこそ、スポーツへの参加は社会的包摂の重要な一部と考えられている。現在、「スポーツを通じた包摂」の対象として政治的アジェンダに置かれているのが、ムスリム女性である。イスラームと女性のスポーツ参加との関係は、アンビバレントなものである。一方で、イスラームにおいて、スポーツや身体活動は、女性も含め推奨される行為とされている。だが、他方で、現実には、ムスリム女性のスポーツ参加の割合は低く留まっている。では、その理由は何であり、また彼女たちの包摂には何が必要だろうか。本講演では、ムスリム女性のスポーツ参加をめぐる現状、スポーツを通じた国際的な環境変化、ムスリム女性のスポーツ参加を妨げる多様な要因について議論することで、信仰、ジェンダー、スポーツの間にある複雑な関係について紐解いていく。その上で、社会的包摂の多様な形について検討する。

あだち さとし  
**安達 智史**

京都府出身。専門は、理論社会学、政治哲学、宗教とジェンダー。研究テーマは、ヨーロッパの社会統合研究、ムスリム女性のジェンダー意識と信仰をめぐる国際比較研究。近年、スポーツと宗教の関係を、イスラーム、女性のエージェンシー、ポスト世俗化をテーマに探究している。主な著書に、『リベラル・ナショナリズムと多文化主義』（勁草書房、2013年）、『再帰的近代のアイデンティティ論』（晃洋書房、2020年）、*Muslim and British post-9/11*（Trans Pacific Press、2023年）。受賞歴として、日本社会学会奨励賞（論文の部、2011年）、同奨励賞（著書の部、2021年）など。



主催 静岡県立大学国際関係学部 共催 静岡県立大学 グローバル・スタディーズ研究センター  
 \*2023年度学部研究推進費「スポーツ・武術のグローバル化と社会的影響に関する領域横断的研究」（共同研究者：坂巻静佳・孫暁剛・富澤かな・奈倉京子）の助成を受けて開催  
 問い合わせ先 富澤かな (t-kana@u-shizuoka-ken.ac.jp)

2023-2

2023年6月27日（火）開催

**特別講義「複数国籍を考える」**

静岡県立大学国際関係学部主催、本センターの共催で、青森公立大学の佐々木てる先生をお招きし、複数国籍について基本的な理解を深める特別講義を開催します。ご関心をお持ちの方は、奮ってご参加ください。

日時：2023年6月27日（火曜日） 10時40分～12時10分

会場：草薙キャンパス 国際関係学部棟3階 3315教室

※駐車場はありませんので、公共の交通機関をご利用ください

どなたでもご参加いただけます。参加に際し、事前に特段の御連絡は不要です。直接会場にお越しください。

問い合わせ先：石井由香（国際関係学部） E-mail：[yishii@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:yishii@u-shizuoka-ken.ac.jp)



# 複数国籍を考える

講師：佐々木てる氏（青森公立大学経営経済学部教授）

日時：2023年6月27日（火）10：40～12：10

場所：国際関係学部棟3階 3315教室

日本で複数の国籍を持っている人は年々増えているのを知っていますか？実際、日本においても人は複数の国籍を保持することが制度的に可能になっています。海外においては、生涯にわたって、複数の国籍を持つことが可能になっている国もあります。ではなぜそれが可能なのでしょうか。国によってどうして違うのでしょうか。海外の国の制度はどうなっているのでしょうか。「複数国籍」について、基本的な理解を深めましょう。

参考文献：佐々木てる編 2022『複数国籍—日本の社会・制度的課題と世界の動向』明石書店

静岡県立大学学生、大学院生、教職員、一般の方、どなたでもご参加いただけます。参加に際し、事前に特段のご連絡は不要です。

共催：静岡県立大学 グローバル・スタディーズ研究センター

問い合わせ先：石井由香（国際関係学部） [yishii@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:yishii@u-shizuoka-ken.ac.jp)

2023-3

2023年7月13日（木）開催

「自著を語る」シリーズ『マイクロヒストリーから読む越境の動態』のお知らせ

7月13日（木）に「自著を語る」シリーズを開催します。センター客員研究員の下條尚志先生（神戸大学国際文化学研究科准教授）をお招きして、村橋勲研究員（静岡県立大学国際関係学部助教）とともに、『マイクロヒストリーから読む越境の動態』を紹介します。

■日時

2023年7月13日（木曜日） 17時00分～19時00分

■会場

草薙キャンパス 国際関係学部棟2階 3215教室（Zoom 配信あり）

※駐車場はありませんので、公共の交通機関をご利用ください

■対面とオンライン併用での開催です。

オンラインでの参加希望者は、事前の申し込みが必要になります。

以下のフォームから申込登録をしてください。7月12日（水）13:00〆切

<https://forms.gle/4AyyuEWbKjhWUBXy7>

■問い合わせ先

村橋勲（国際関係学部）

電話：054-264-5381 E-mail：[i\\_murahashi@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:i_murahashi@u-shizuoka-ken.ac.jp)

\*\*\*\*\*

「自著を語る」シリーズ

# ミクロヒストリーから 読む越境の動態

王柳蘭・山田孝子(編)、国際書院、2023年4月 (<http://www.kokusai-shoin.co.jp/320.html>)

2023年 **7/13木** 17:00～19:00

国際関係学部棟 3215 教室 (オンライン Zoom 配信あり)

オンライン参加の方は参加申し込みが必要です。以下のフォームからお申し込みください  
<https://forms.gle/4AyyuEWbKjhWUBXy7> (7月12日(水) 13:00㊦切)

参加費無料



## 講演者

村橋 勲 Isao MURAHASHI

(静岡県立大学国際関係学部助教/  
グローバル・スタディーズ研究センター 研究員)

下條 尚志 Hisashi SHIMOJO

(神戸大学国際文化学研究所准教授/  
グローバル・スタディーズ研究センター 客員研究員)

## 司会

石井 由香 Yuka ISHII

(静岡県立大学国際関係学部教授/  
グローバル・スタディーズ研究センター センター長)

越境者にとって故郷とは何か、帰属とは何か。今回の「自著を語る」では、東アフリカと東南アジアの事例から、越境者がさまざまな他者とのかわりあいのなかで、(いかに生きたか)に注目し、彼らがどのように自己を見つめなおし、地域とのつながりを紡いできたかを考える。これは、越境者の〈生〉の物語と実践から、国家による「大きな物語」を脱中心化し、越境者と地域社会との間で交渉、生成される「小さな歴史」を立ち上げようとする試みである。このセミナーでは、書籍の紹介だけでなく、文化人類学を専門とする2人の若手研究者が、フィールドワークをとおした越境者や地域の人々との出会いと対話、そして、調査から論文の着想、作成へと至った経緯について話します。

## スケジュール

17:00～17:05 司会

17:05～18:25 講演

18:25～19:00 コメント・質問



2023-4

2023年7月4日（火）開催

**特別イベント「西サハラ問題を語る ～自転車ツアーによる国際連帯の取り組み～」**

スウェーデン出身の人権活動家2名をお招きし、西サハラ問題（モロッコによる西サハラ地域の占領問題）に関する特別イベントを開催します。今回のイベントでは、西サハラ問題に関するドキュメンタリーを鑑賞した後、ゲストと会場のトークコーナーを設けます。トークコーナーでは、西サハラの現状についてはもちろんのこと、ゲストが実践する自転車での世界ツアーというユニークなアドボカシー活動についても貴重なお話を伺う予定です。事前申込は不要ですので、皆さま奮ってご参加ください。

【日時】2023年7月4日（火曜日） 10時40分～12時40分

【場所】静岡県立大学 国際関係学部棟 3314 教室（事前申込不要）

【備考】ドキュメンタリー映像は日本語字幕があります。講演は英語で行われますが、適宜日本語訳が入ります。

【問い合わせ先】山本健介（国際関係学部） [k-yamamoto@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:k-yamamoto@u-shizuoka-ken.ac.jp)



# 西サハラ問題を語る



## ～自転車ツアーによる国際連帯の取り組み～

1975年、スペインの植民地だった西サハラにモロッコ軍が侵攻し、同地を占領しました。現地の活動家らはモロッコの占領と闘うため、砂漠に避難し、西サハラの解放を求めて闘い続けています。占領下の住民は深刻な人権侵害に見舞われ、西サハラの天然資源は今も篡奪されています。

スウェーデンの人権活動家ベンジャミンさんとサナさんは、西サハラ問題を知ってもらうため、自転車で世界各地を走り、アドボカシー活動を行っています。今回は西サハラ問題の実態を描いたドキュメンタリー映画「銃か落書きか」を上映し、お2人のお話を伺う会を開催します。



### 【ドキュメンタリー上映会 & トーク】

日時：7月4日(火) 10時40分～12時40分

会場：静岡県立大学 国際関係学部棟3314教室 (事前申込不要)

言語：日本語と英語 (適宜通訳あり)

- 10:40 趣旨説明
- 10:50 「銃か落書きか」上映 (日本語字幕、52分)
- 11:50 トーク：ベンジャミンさん×サナさん  
聞き手：山本健介
- 12:15 質疑応答
- 12:40 終了予定

### ベンジャミン・ラドラさん

スウェーデン出身。音楽教員を経て、人権活動家となる。パレスチナ問題について訴えるため、スウェーデンからパレスチナまで4,800kmを11ヶ月かけて歩いた経験を持つ。抑圧された人びとのための連帯・連携を強めたいと考えている。

### サナ・ゴドビさん

スウェーデン出身。イラン系クルド人。イエーテボリ市議会議員を務めたほか、南米先住民族の支援経験を持つ。クルド人、パレスチナ人、サハラウィ(西サハラ人)が団結して闘うことを目指す。



【主催】静岡県立大学 国際関係学部 山本研究室、【共催】静岡県立大学 グローバル・スタディーズ研究センター  
【協力】西サハラ友の会、【問い合わせ】山本健介 [k-yamamoto@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:k-yamamoto@u-shizuoka-ken.ac.jp)

2023-5

2023年10月1日（日）開催

「多文化共生社会と介護」第2回研究会「外国人介護労働者を『受け入れて育てること』  
～人材確保と育成の先に～」

日本で医療・福祉分野で働く外国人は約7万人おり、そのうち約5万人を占めるのが福祉分野（特に介護）です。このシンポジウムでは外国人介護人材の「育成と定着支援」に焦点を当て、彼（女）らの受け入れ枠組みと育成の仕組みの現状と課題を明らかにし、職場および地域社会の一員として彼（女）らが安心して暮らせるための環境づくりを考えます。

【日時】2023年10月1日（日曜日） 13時00分～16時00分

【対象】どなたでも

【場所】静岡県立大学 国際関係学部棟 3108 教室

【備考】対面とオンラインのハイブリッド開催です。申し込みはチラシのQRコードから。

【問い合わせ先】高畑幸（国際関係学部） [takahata@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:takahata@u-shizuoka-ken.ac.jp)

主催：「多文化共生社会と介護」研究会（企画 鄭安君）  
共催：静岡県立大学グローバルスタディーズ研究センター

# 「多文化共生社会と介護」第2回研究会 「外国人介護労働者を『受け入れて育てること』 ～人材確保と育成の先に～」

誰が、どのように介護を担っていくのか。少子高齢化が世界的に進行する中、多くの国や地域では深刻化する介護問題に直面しています。介護分野における外国人労働者の導入と受け入れルートの拡大は処方箋として大きな意味を持っています。しかし、人材不足に因應するための受け入れであるにも関わらず、日本では受け入れ国や地域の介護制度、介護資源、介護人材の育成や確保の課題に合わせての議論はまだ十分ではありません。そして、介護問題は多文化共生社会の在り方をも問いかけています。本研究会は、様々な国や地域の実情を踏まえながら、「多文化共生と介護」を学際的に議論していきます。

第2回研究会は、「受け入れて育てる」をメインテーマにし、日本にはどのような外国人介護人材の育成の仕組みやプロジェクトがあるか、その現状と課題はどのようになっているのかを見つめたい。外国人介護職員の育成・定着だけでなく、日本社会の一市民・一生活者として、どのように受け入れて、ともに成長していくかについて議論していきたい。

開催日時：2023年10月1日（日）13:00～16:00

開催方法：対面およびオンライン（ZOOM）

対面会場：静岡県立大学 国際関係学部棟1F 3108教室

参加申込：2023年9月25日までに下記のURLまたはQRコードから申し込んでください。  
（参加費無料）

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSelFclNhfZi0AocDUFGepZKYA80g7z6dvCJmAlwpjwOwXvdQ/viewform>

## プログラム

総合司会：鄭安君

趣旨説明 「『受け入れて育てる』を改めて問う意味」（仮）

鄭安君（宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター 研究員）

### 第Ⅰ部 報告

1:「外国人ケア労働者をケアするのは誰か」（仮）

高畑 幸（静岡県立大学国際関係学部 教授）

2:「外国人介護労働者と多文化共生地域福祉への展望」（仮）

朝倉 美江（金城学院大学人間科学部 教授）

### 第Ⅱ部 パネルディスカッション

討論者：中村 政弘（株式会社 インターアジア代表取締役）

太田 貞司（長野大学社会福祉学部 教授）

田巻 松雄（宇都宮大学 名誉教授）（予定）

- 「多文化共生社会と介護」研究会は、公益財団法人日本台湾交流協会 日台若手研究者共同研究事業（2021-2023）外国人材グループ「外国人労働者の受け入れと多文化共生社会の形成」（日本側研究代表者・山脇啓造（明治大学国際日本学部 教授））の共同研究者として開催するものです。

2023-6

2023年10月21日(土)・11月25日(土)開催

**「映画で知ろう！移民・難民Ⅳ」開催のお知らせ**

今年も CEGLOS 移動大学として、移民・難民をめぐる映画企画を次の通り実施いたします。映画上映の後は、監督から直接お話をいただきます。

実施日程：

第1回 2023年10月21日(土) 9:30～12:00 「華のスマカ」

第2回 2023年11月25日(土) 9:45～12:00 「かぞくの証明」「彷徨」

会場： 静岡市地域福祉共生センター「みなくる」地域交流ホール（静岡市駿河区南八幡町3-1 南部図書館2階）

入場無料です。事前申し込みが必要です。チラシにある申込方法を御確認いただき、お申し込みください。申込順先着100名です。また、映画の内容など詳細につきましても、チラシをご覧ください。

どなたでもお申し込みいただけます。皆様のご来場を心からお待ちしています。

# 映画で知ろう! 移民・難民Ⅳ

今年も移民・難民をめぐる映画企画を実施いたします。  
映画上映の後は、監督から直接お話をいただきます。  
皆さまのご来場を心からお待ちしています。

## 第1回

2023年 10/21(土) 入場無料  
申込順先着100名

🕒 9:15 開場 🕒 9:30 映画上映開始 🕒 12:00 終了

### 「華のスマカ」



華僑四世の林監督は、なぜ、またどのように自らのルーツに向き合う作品を創りあげたのか。横浜中華街の発展とともに歩んできた人々の姿、家族の葛藤、そして横浜華僑社会の過去・現在・未来をとらえたドキュメンタリー。

解説 林 隆太(映画監督)

司会・進行 奈倉 京子(国際関係学部・教授/CEGLOS 研究員)  
石井 由香(国際関係学部・教授/CEGLOS センター長)

## 第2回

2023年 11/25(土) 入場無料  
申込順先着100名

🕒 9:30 開場 🕒 9:45 映画上映開始 🕒 12:00 終了

### 「かぞくの証明」「彷徨」



故郷を追われ、祖国を失った人々の「生」をみつめたドキュメンタリー。「かぞくの証明」では、エチオピア人難民認定申請者が、自分の結婚と家族の存在を証明するために奮闘する姿、「彷徨」では、ユーゴスラビア出身の無国籍者が、東京の街を彷徨いながら刑務所と入管での半生を振り返る姿を描く。

解説 岩崎 祐(映画監督)

司会・進行 村橋 勲(国際関係学部・助教/CEGLOS 研究員)

会場 静岡市地域福祉共生センター「みなくる」地域交流ホール(静岡市駿河区南八幡町3-1 南部図書館2階)  
※第1回と第2回で開場および開始時間が異なります。各回の開始時間を御確認ください。

申込方法 「みなくる」窓口にご越し頂くか、電話・メールにて【参加希望日、お名前、緊急連絡先】をお知らせください  
※メールの場合は、件名を「映画上映参加希望」としてお送りください

静岡市地域福祉共生センター「みなくる」 TEL 054-201-9010 メール mina.ccrcc@u-shizuoka-ken.ac.jp

2023-7

2023年11月29日(水)開催

## Study CIRcle 2023-2024 公開レクチャーシリーズ第1回「恐れぬ市民が社会を変える」 のご案内

グローバル・スタディーズ研究センターでは、学生が自らの知的好奇心に基づいて、自ら設定したテーマを追求する StudyCIRcle という活動を、2020年度から行っています。

StudyCIRcle では、学生の要望に応じて、専門家の先生をお招きしてお話を伺うことを特徴としており、これをレクチャーシリーズとして公開します。当日は、先生をお呼びした学生が進行を行い、レクチャーに加えて、本人からの質疑を中心に進行します。

今回は、レクチャーシリーズ第1回を、以下のとおり、開催いたします。

講師 内田聖子先生 (NPO 法人アジア太平洋資料センター (PARC))

日程 11月29日(水) 18時から20時まで

場所 オンライン

講義タイトル 「恐れぬ市民が社会を変える」

企画趣旨

国際関係学部4年の太田と申します。今回の講演会の企画者です。この30年間で、この世界の不平等はあまりにも拡大してしまいました。私たちの価値観も変わってしまったかもしれません。この歪んだ世界のバランスを直すために、「市民」がもう一度力強く立つ必要がある、そう、「恐れぬ市民」になる必要があると感じています。

「今の社会に何も恐れることなんかないんじゃない？」。

そう思っている方々が多いかもしれません。しかし、たとえば、地元の個人店を追い出して大型商業施設やタワーマンションを建てて、街の再開発を進めることを恐れなくてよいでしょうか。こうした施設は、本当に自分たちのまちに必要でしょうか。

今回の講演では、そんな問題意識を背景に、内田聖子さんから、国内外の「恐れぬ市民」になることに成功した人々の事例についてお話しいただき、私たちが身近に感じる違和感や疑問の正体を明らかにし、その先にどんな行動を取るべきなのかを考えるきっかけを得たいと思います。

恐れぬ市民になることの重要性と必要性を一緒に考えてみませんか？

## 講師プロフィール

内田 聖子（うちだしょうこ）さん

NPO 法人アジア太平洋資料センター（PARC）共同代表。NPO 法人日本国際ボランティアセンター（JVC）理事。世界の貿易・投資、デジタル経済の課題について、政府や国際機関のウォッチと調査、政策提言、市民キャンペーンなどを国内外の市民社会組織と行う。2022年の杉並区長選挙では岸本聡子選对本部長を務めた。現在は岸本聡子の政務担当者としても活動。共編著に『自由貿易は私たちに幸せにするのか？』（コモンズ）。編著に『日本の水道をどうする？—民営化か公共の再生か』（コモンズ）など。

## 申込フォーム

<https://forms.gle/KRv9iqDzUUk5sn2y6>

講義前日までにお申し込みください。

## 連絡先

津富（静岡県立大学国際関係学部） [tsutomi@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:tsutomi@u-shizuoka-ken.ac.jp)

静岡県立大学大学院国際関係学研究所附属グローバル・スタディーズ研究センター主催

Study CIRcle 2023--2024 公開レクチャーシリーズ 第1回

## 恐れぬ市民が社会を変える

11月29日(水) 18時~20時 オンライン開催

講師 内田聖子先生(NPO 法人アジア太平洋資料センター(PARC))

グローバル・スタディーズ研究センターでは、学生が自らの知的好奇心に基づいて、自ら設定したテーマを追求する Study CIRcle という活動を、2020 年度から行っています。

Study CIRcle では、学生の要望に応じて、専門家の先生をお招きしてお話を伺うことを特徴としており、これをレクチャーシリーズとして公開します。当日は、先生をお呼びした学生が進行を行い、レクチャーに加えて、本人からの質疑を中心に進行します。

【企画趣旨】 国際関係学部4年の太田と申します。今回の講演会の企画者です。この30年間で、この世界の不平等はあまりにも拡大してしまいました。私たちの価値観も変わってしまったかもしれません。この歪んだ世界のバランスを直すために、「市民」がもう一度力強く立つ必要がある、そう、「恐れぬ市民」になる必要があると感じています。「今の社会に何も恐れることなんかないんじゃない?」。そう思っている方々が多いかもしれません。しかし、たとえば、地元の個人店を追い出して大型商業施設やタワーマンションを建てて、街の再開発を進めることを恐れなくてよいでしょうか。こうした施設は、本当に自分たちのまちに必要でしょうか。今回の講演では、そんな問題意識を背景に、内田聖子さんから、国内外の「恐れぬ市民」になることに成功した人々の事例についてお話しいただき、私たちが身近に感じる違和感や疑問の正体を明らかにし、その先にどんな行動を取るべきなのかを考えるきっかけを得たいと思います。恐れぬ市民になることの重要性和必要性と一緒に考えてみませんか?



【講師プロフィール】 内田 聖子(うちだしょうこ)

NPO 法人アジア太平洋資料センター(PARC)共同代表。NPO 法人日本国際ボランティアセンター(JVC)理事。世界の貿易・投資、デジタル経済の課題について、政府や国際機関のウォッチと調査、政策提言、市民キャンペーンなどを国内外の市民社会組織と行う。2022年の杉並区長選挙では岸本聡子選对本部長を務めた。現在は岸本聡子の政務担当者としても活動。共編著に『自由貿易は私たちを幸せにするのか?』(コモンズ)。編著に『日本の水道をどうする?—民営化か公共の再生か』(コモンズ)など。



【申込フォーム】 <https://forms.gle/KRv9iqDzUUk5sn2y6>

\* 講義前日までにお申し込みください。



【連絡先】 津富(静岡県立大学国際関係学部) [tsutomi@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:tsutomi@u-shizuoka-ken.ac.jp)



2023-8

2023年11月～1月開催

### 静岡県立大学×カリフォルニア大学バークレー校協定更新記念公開セミナー

静岡県立大学とカリフォルニア大学バークレー校は、2007年に大学間交流協定を結び、今年3回目の協定更新を迎えました。これを記念し、両校の交流の歴史を振り返りながら、海洋を超えた多様な人々や文化の交錯をテーマにリレー講演をお届けします。

静岡県立大学×カリフォルニア大学バークレー校協定更新記念公開セミナー Across the Oceans:多様性の交錯

趣旨説明 松森奈津子(静岡県立大学)

静岡県立大学とカリフォルニア大学バークレー校は、2007年に大学間交流協定を結び、今年3回目の協定更新を迎えました。これを記念し、両校の交流の歴史を振り返りながら、海洋を超えた多様な人々や文化の交錯をテーマにリレー講演をお届けします。

第1部 2023年11月20日(月) 11:00-12:00

主催者挨拶 石井由香(静岡県立大学教授、グローバル・スタディーズ研究センター長)

交流の概要 澤田敬人(静岡県立大学教授、国際交流バークレー校専門委員)

記念講演1 献策家(アルビトリスタ)と革新者(ノバトル)ー17世紀「危機」の時代のスペイン思想ー

講師 松森奈津子(静岡県立大学国際関係学部教授)

第2部 2023年12月18日(月) 15:00-16:00

記念講演2 食・生業の多様性と農生態系の多重安定性ー歴史生態学とレジリエンス理論の視点からー

講師 羽生淳子(カリフォルニア大学バークレー校教授)

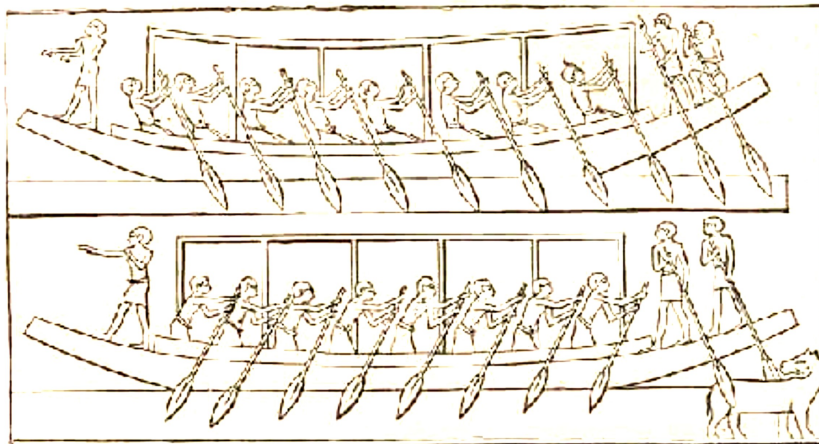
第3部 2024年1月15日(月) 13:00-14:00

記念講演3 アジア系アメリカ人の歴史とアメリカン・ドリーム

講師 山中啓子(静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センター客員研究員)

# 静岡県立大学×カリフォルニア大学バークレー校 協定更新記念公開セミナー

主催：静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センター



ANCIENT EGYPTIAN BOATS. Source: The Freshwater and Marine Image

## Across the Oceans:多様性の交錯

**\*\*趣旨\*\*** 静岡県立大学とカリフォルニア大学バークレー校は、2007年に大学間交流協定を結び、今年3回目の協定更新を迎えました。これを記念し、両校の交流の歴史を振り返りながら、海洋を超えた多様な人々や文化の交錯をテーマにリレー講演をお届けします。

### 講師略歴

松森奈津子 東京都生まれ。スペイン政府給費奨学生として、国立マドリード大学博士課程修了 (Ph.D., 政治学)。カリフォルニア大学バークレー校元客員研究員。専門は政治思想史、国際思想史。スコラ学が近代政治思想に与えた影響を考察している。主著に、*The School of Salamanca in the Affairs of the Indies* (Routledge, 2019), 『野蛮から秩序へ』(名古屋大学出版会、2009、サントリー学芸賞)、*Civilización y barbarie* (Biblioteca Nueva, 2005) など。

羽生淳子 神奈川県生まれ。総合地球環境学研究所客員教授。カリフォルニア大学バークレー校人類学科教授・日本研究センター長。専門は、縄文考古学、歴史生態学。食の多様性と文化の景観利用の長期持続性との関係について、学際的・国際的な議論を進めている。主な著書に『やま・かわ・うみの知をつなぐ—東北における在来知と環境教育の現在—』(共編著・東海大学出版部、2018)、*Ancient Jomon of Japan* (ケンブリッジ大学出版会、2004) など。

山中啓子 静岡県生まれ。コーネル大学社会学部博士号取得、カリフォルニア大学バークレー校にて民族研究学部とグローバル研究学部にて長年講師として教えたのち、2023年12月に退職。研究と出版はアジアにおける労働移住に関するものが多い。

### 第1部 2023年11月20日(月) 11:00-12:00

主催者挨拶 石井由香

静岡県立大学教授、グローバル・スタディーズ研究センター長

交流の概要 澤田敬人

静岡県立大学教授、国際交流バークレー校専門委員

#### 記念講演1

献策家(アルビトリスタ)と革新者(ノバトル)

—17世紀「危機」の時代のスペイン思想—

講師 松森奈津子

静岡県立大学国際関係学部教授

### 第2部 2023年12月18日(月) 15:00-16:00

#### 記念講演2

食・生業の多様性と農生態系の多重安定性  
—歴史生態学とレジリエンス理論の視点から—

講師 羽生淳子

カリフォルニア大学バークレー校教授

### 第3部 2024年1月15日(月) 13:00-14:00

#### 記念講演3

アジア系アメリカ人の歴史とアメリカン・ドリーム

講師 山中啓子

静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センター客員研究員



← お申し込みはこちらからお願いします。

本セミナーは、静岡県立大学大学院特別講義予算、静岡県立大学交流事業予算、静岡県立大学教員特別研究推進費(区分1)、科研費国際共同研究強化(A)、科研費挑戦的研究(萌芽)に基づくものです。

2023-9

2023年12月9日(土)開催

**Study CIRcle 2023-2024 公開レクチャーシリーズ第2回「生きづらさを抱えた若者の回復を支える場をどのようにつくるか：岩手県陸前高田市における NPO 法人 SET の活動」のご案内**

グローバル・スタディーズ研究センターでは、学生が自らの知的好奇心に基づいて、自ら設定したテーマを追求する StudyCIRcle という活動を、2020年度から行っています。

StudyCIRcle では、学生の要望に応じて、専門家の先生をお招きしてお話を伺うことを特徴としており、これをレクチャーシリーズとして公開します。当日は、先生をお呼びした学生が進行を行い、レクチャーに加えて、本人からの質疑を中心に進行します。

今回は、レクチャーシリーズ第2回を、以下のとおり、開催いたします。

日程 2023年12月9日(土曜日) 20時00分～22時00分

場所 オンライン (Zoom)

#### 企画趣旨

NPO 法人 SET は東日本大震災の被災地である陸前高田市で、全国各地から集まる若者たちの学びと活動の場を提供している。参加する若者たちの多くは、スピードや競争に満ちた環境で追われ続けた結果、生きづらさを抱え、休学や退学、退職をし、自分探しの過程として SET にたどりつく。本講演では、そうした若者が SET での学びや共同生活、地域での体験を通じて何かをつかみ、回復していくありさまについて、報告をいただく。ご報告を通じて、生きづらさの横溢する我が国において、どのように若者のための回復の場を整えたらよいかについて考えを深めたい。

#### 講師プロフィール

岡田勝太 NPO 法人 SET 理事 2013年 Change Makers Program 発起人。Change MakersCollege 学長。デンマークの成人教育機関「フォルケフォイスコーレ」と国内の連携推進。実践分野は人の発達に関する関係性やコミュニティデザイン。著作に『フォルケフォイスコーレのすすめーデンマークの「大人の学校」に学ぶ』(共著、花伝社、2022年)。

#### 申込フォーム

講義前日までに、下記 google form でお申し込みください。

<https://forms.gle/soSwv48hoWjFnZ2h7>

登録していただいたメールアドレスへ、Zoom の URL を当日までにお送りします。

連絡先

国際関係学部 津富宏 E-mail : [tsutomi@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:tsutomi@u-shizuoka-ken.ac.jp)

静岡県立大学大学院国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センター主催

## Study CIRcle 2023--2024 公開レクチャーシリーズ 第2回

### 生きづらさを抱えた若者の回復を支える場をどのように作るか

—岩手県陸前高田市における NPO 法人 SET の活動—

12月9日(土) 20時~22時 **オンライン開催**

講師 岡田勝太 (NPO 法人 SET 理事)

グローバル・スタディーズ研究センターでは、学生が自らの知的好奇心に基づいて、自ら設定したテーマを追求する Study CIRcle という活動を、2020 年度から行っています。

Study CIRcle では、学生の要望に応じて、専門家の先生をお招きしてお話を伺うことを特徴としており、これをレクチャーシリーズとして公開します。当日は、先生をお呼びした学生が進行を行い、レクチャーに加えて、本人からの質疑を中心に進行します。

#### 【企画趣旨】

NPO 法人 SET は東日本大震災の被災地である陸前高田市で、全国各地から集まる若者たちの学びと活動の場を提供している。参加する若者たちの多くは、スピードや競争に満ちた環境で追われ続けた結果、生きづらさを抱え、休学や退学、退職をし、自分探しの過程として SET にたどりつく。本講演では、そうした若者が SET での学びや共同生活、地域での体験を通じて何かをつかみ、回復していくありさまについて、報告をいただく。ご報告を通じて、生きづらさの横溢する我が国において、どのように若者のための回復の場を整えたらよいかについて考えを深めたい。



#### 【講師プロフィール】 岡田勝太

NPO 法人 SET 理事 2013 年 Change Makers Program 発起人。Change Makers College 学長。デンマークの成人教育機関「フォルケフォイスコーレ」と国内の連携推進。実践分野は人の発達に関する関係性やコミュニティデザイン。著作に『フォルケフォイスコーレのすすめ—デンマークの「大人の学校」に学ぶ』(共著、花伝社、2022 年)。

#### 【申込フォーム】

\* 講義前日までにお申し込みください。



【連絡先】 津富(静岡県立大学国際関係学部) [tsutomi@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:tsutomi@u-shizuoka-ken.ac.jp)

2023-10

2024年1月7日（日）開催

## オンラインセミナー・自著を語る『コミュニティ・オーガナイズングの理論と実践』のご案内

本センターは1月7日（日）、オンラインセミナー・自著を語る『コミュニティ・オーガナイズングの理論と実践』を開催いたします。

### 企画趣旨

市民の力を合わせて社会を変える手法であるコミュニティ・オーガナイズング（CO）に注目が集まっている。しかしながら、わが国における、COの紹介や理論的検討は、散発的なものにとどまってきた。2023年8月に出版された、室田・石神・竹端編（2023）『コミュニティ・オーガナイズングの理論と実践』（有斐閣）は、COについて、理論面と実践面から多角的かつ本格的に検討した、日本で初の書物である。本企画では、本書の執筆者からその概要を紹介しつつ、COとは何か、COにはどのような意義があるのかという問いに対する応答の多様性と深まりを参加者とともに共有したい。

なお、本書第8章「身近なコミュニティ・オーガナイズング：生きづらさの時代のCO」は、国際関係学部教員の津富が、沼津で市民活動を行っている小和田尚子さんとともに執筆したもので、生きづらさの乗り越えを背景とする、本学学生や沼津市民によるコミュニティ・オーガナイズングを紹介している。

主催 静岡県立大学大学院国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センター

会場： オンライン（Zoom）

日時 2024年1月7日（日）13時～15時半

参加者（予定）

室田信一（東京都立大学）

石神圭子（福岡女子大学）

竹端 寛（兵庫県立大学）

山崎 憲（明治大学）

藤井敦史（立教大学）

藤井博志（関西学院大学）

清水潤子（武蔵野大学）

渡辺裕一（武蔵野大学）

小和田尚子（沼津市民シンクタンク）

小田川華子（公益社団法人ユニバーサル志縁センター）

津富宏（静岡県立大学）

プログラム（予定）

ご挨拶

概説： 本書の趣旨、COとは

内容紹介： 各章執筆者からのブリーフィング

休憩

討論： COの意義・本書の意義

質疑応答

クロージング、アンケートなど

申込み

下記リンクから、12月31日までにお申込みください。前日までに、zoom URLをお送りします。

<https://forms.gle/fKMaAgT2pzp8kcvs8>

問い合わせ

津富宏（tsutomi@u-shizuoka-ken.ac.jp）

オンラインセミナー 自著を語る

# コミュニティ・オーガナイズの理論と実践

市民の力を合わせて社会を変える手法であるコミュニティ・オーガナイズ(CO)に注目が集まっている。しかしながら、わが国における、COの紹介や理論的検討は、散発的なものにとどまってきた。2023年8月に出版された、室田・石神・竹端編(2023)『コミュニティ・オーガナイズの理論と実践』(有斐閣)は、COについて、理論面と実践面から多角的かつ本格的に検討した、日本で初の書物である。本企画では、本書の執筆者から、その概要を紹介しつつ、COとは何か、COにはどのような意義があるのかという問いに対する応答の多様性と深まりを参加者とともに共有したい。

2024年 1/7日 13:00~15:30

会場: オンライン (Zoom)

申込みフォーム ● <https://forms.gle/fKMaAgT2pzp8kcv8> 〆切: 12月31日 〇 まで

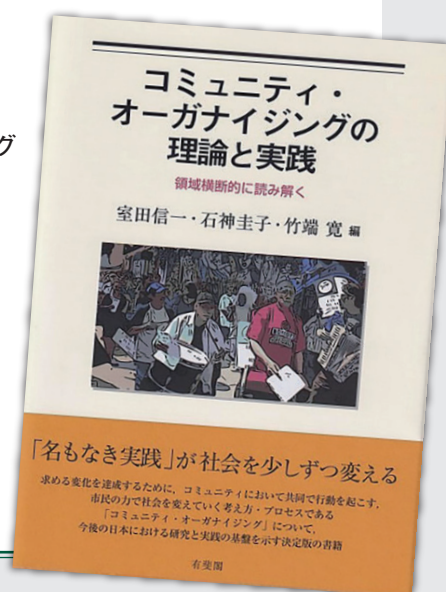


## ● 参加者 (予定)

室田 信一 (東京都立大学)  
石神 圭子 (福岡女子大学)  
竹端 寛 (兵庫県立大学)  
山崎 憲 (明治大学)  
藤井 敦史 (立教大学)  
藤井 博志 (関西学院大学)  
清水 潤子 (武蔵野大学)  
渡辺 裕一 (武蔵野大学)  
小和田 尚子 (沼津市民シンクタンク)  
小田川 華子 (公益社団法人ユニバーサル志縁センター)  
津富 宏 (静岡県立大学)

## ● プログラム (予定)

- ・ ご挨拶
- ・ 概説: 本書の趣旨、COとは
- ・ 内容紹介: 各章執筆者からのブリーフィング
- ・ 休憩
- ・ 討論: COの意義・本書の意義
- ・ 質疑応答
- ・ クロージング、アンケートなど



問い合わせ 津富 宏 (tsutomi@u-shizuoka-ken.ac.jp)

主催 静岡県立大学大学院国際関係学研究所附属グローバル・スタディーズ研究センター



2023-11

2023年11月24日（金）開催（報告2024年1月31日）

## 「自著を語る」シリーズ 連続企画「共鳴するポジショナリティ」開催報告（1）

本センターでは「自著を語る」シリーズ 連続企画「共鳴するポジショナリティ」を開催いたしました。第1回「排除を乗り越える文化の探究」について、以下のとおり報告いたします。

「排除を乗り越える文化の探究」

日時：11月24日（金）17：00－19：00

開催形式：対面（国際関係学部4階3314室）＋Zoom

講演者 二羽泰子（国際関係学部・講師／CEGLOS研究員）

司会・対談者 奈倉京子（国際関係学部・教授／CEGLOS研究員）

まず、奈倉京子研究員より本連続企画の趣旨説明がされた。研究者にとって身近な問題を扱う際にはポジショナリティ（＝立場性）を意識せずに取り組んでしまうと研究して成り立たなくなってしまうことがあり、一方で、身近な問題を研究する時の覚悟は容易ではない。本企画では、二人の研究者が障害とかかわる〈当事者〉という立場にありながら障害を対象に研究してきた経験をふりかえり、対象をよく知っているからこそともなう〈痛み〉や〈葛藤〉とどのように向き合ってきたのかを語る。〈共鳴〉は、①それぞれが対象と共鳴すること、②二人の研究者が、それぞれの障害に関する研究を通して〈共鳴〉し合うこと、を意味する。

つづけて、二羽泰子研究員より、2つのご論考—①「終わりの見えない支援—特別支援教育におけるマイノリティをめぐるジレンマ」、②Inclusion and Diversity: Communities and Practices Across the World—をもとに、報告がおこなわれた。まず、①について、教育現場における支援システムによって「障害者」が生産しつづけている「降格する貧困」の現象が語られた。「障害児」と「なった」子どもたちは、障害児手帳を取得し、障害児として生きるか、困難を抱えたまま健常児として生きるかの葛藤に迫られている。こうした排除的な仕組みを変革するためには学校内外の多様な人が連携する必要がある。そこで②の内容へ続く。②では、非差別部落の子どもたちを対象とした「解放教育」と、障害児を対象とした「障害児教育」の接点を見だし、それぞれの社会運動で提唱された「解放文化」と「ノーマライゼーション文化」の双方を共存させ、さらにはそれらを超えて形成されうる「インターセクショナルな文化」（intersectional culture）の可能性が検討された。障害や部落といったカテゴリーによる差異を強調するのではなく、「その時にしんどい子どもの差異を強調して真ん中に据える」ことが重要であることが述べられた。

報告後、奈倉研究員と対談をおこない、〈当事者〉という立場でおこなったフィールドワークで感じたこと、及び「制度」と「文化」の関係や「交差性」について議論した。その後、会場の聴講者からコメントや質問が出され、活発な意見交換がなされた。二羽研究員が調査してきた大阪府豊中市でなぜ運動の成果は実り、制度へ影響を与えることができたのか等の質問について、明快な応答がされた。21名（教員、院生、学部生）の参加があり、大変充実した議論がおこなわれた。

文責：奈倉京子

2023-12

2023年12月15日（金）開催（報告2024年1月31日）

## 「自著を語る」シリーズ 連続企画「共鳴するポジショナリティ」開催報告（2）

本センターでは「自著を語る」シリーズ 連続企画「共鳴するポジショナリティ」を開催いたしました。第2回「中国の知的障害者とその家族—「新しい社会性」のエスノグラフィー」について、以下のとおり報告いたします。

中国の知的障害者とその家族—「新しい社会性」のエスノグラフィー

日時：12月15日（金）17：00－19：00

開催形式：対面（国際関係学部4階3314室）+Zoom

講演者 奈倉京子（国際関係学部・教授／CEGLOS研究員）

司会・対談者 二羽泰子（国際関係学部・講師／CEGLOS研究員）

まず、二羽泰子研究員より本連続企画の趣旨説明がされ、前回（第一弾）報告された、日本の障害のある子をめぐる文化、制度との比較を試みることで提示された。

つづけて、奈倉京子研究員の報告へ移り、まず、障害者研究を始めた背景、問題意識、調査者としての立場性について語られた。次に、本書の2つの問い—①2000年代以降の中国のポスト社会主義的状況が、障害者とその家族にどのような影響をもたらしているのか。②中国の障害者とその家族の「新しい社会性」とは何か。—が提示され、問いを探究するための方法が紹介された。具体的には、家族以外の多様な他者とのかかわりが必要とされる障害者とその家族を対象に、障害のある家族成員のケアは家族以外の「中間的領域／組織」に頼ることができるのか、あるいは家族へ全面的に依存せざるを得ない状況にあるのかといったことを考察し、それより「新しい社会性」の内実を記述することである。このような考察を通して、中国独自の社会主義が形成してきた社会・文化に生きる個々の障害者とその家族の生の営みに焦点を当て、個人と家族、家族と社会／国家の結びつきのあり方を検討し、考察の結果についてまとめられた。

報告後、二羽研究員との対談では、調査中に直面した〈痛み〉をどう乗り越えたのか、「インターセクショナル・カルチャー」と「共生の文化と」との関連性は何か、日本と中国における専門家が当事者へ及ぼす作用の相違は何か、障害者権利条約の実施における両国の共通点等について議論された。今回、40名（教員、院生、学部生）の参加があり、参加者からも多くの質問、コメントが出された。

文責：奈倉京子

# 共鳴する マイノリティ

〈障害〉研究をめぐり、二人の研究者が、〈当事者〉として対象者に向き合う〈痛み〉とどう折り合いをつけながら、社会的に周縁化された人々の生の営みに向き合ってきたのかを語り、マイノリティの排除を乗り越える〈共生の文化〉の形成や〈インクルーシブ社会〉の実現について検討します。

## 国際関係学部棟 3314 教室 (オンライン Zoom配信あり) \*学内者限定

オンライン参加の方は、参加申し込みが必要です。以下の申し込みフォームよりお申込みください。

### 第一弾

11/24(金) 17:00-19:00

## 排除を乗り越える 文化の探求

講演者 二羽 泰子 (国際関係学部・講師/CEGLOS研究員)

司会・対談者 奈倉 京子 (国際関係学部・教授/CEGLOS研究員)

教育における排除はどのように進行しているのだろうか。そのような排除はどうすれば乗り越えられるのだろうか。まず、障害者個別の問題だと考えられてきた教育における排除が、他のマイノリティを巻き込み拡大し続けている現状について分析した拙稿を紹介します。そのうえで、マイノリティをめぐる二つの社会運動が交差して生まれた、排除に抗する新たな文化について書いた別の拙稿から、マイノリティの排除を乗り越える文化の可能性について考えます。



スケジュール(第一弾・第二弾共通)

17:00 ~ 17:05 司会

17:05 ~ 17:50 講演

17:50 ~ 19:00 対談・フロアからの質問



### 第二弾

12/15(金) 17:00-19:00

## 中国の知的障害者とその家族 —「新しい社会性」のエスノグラフィー

(奈倉京子著、東方書店、2023年2月刊行)

講演者 奈倉 京子 (国際関係学部・教授/CEGLOS研究員)

司会・対談者 二羽 泰子 (国際関係学部・講師/CEGLOS研究員)

2000年代以降、中国は、中国共産党の管理と指示に従って行動する必要があり、かつ個人化のもとで「新しい社会性」(新たな個人とその結びつきのありかた)が生まれている(ポスト社会主義的状況)にあります。中国における障害者とその家族、並びに障害者を支援する民間組織の考察を通して、〈共生の文化〉形成の可能性について考えます。更に、第一弾企画と対話し、日本と中国は西側諸国の「普遍的価値観」を受け入れつつ、両国ともに国内では依然としてマイノリティの排除と差別がおこなわれている問題とその原因について議論します。



第1弾申込▼

<https://forms.gle/cYUWQd9ryjwCnZzu7>



第2弾申込▼

<https://forms.gle/xeUW8sg7W635Ma1r8>



2023-13

2024年2月24日(土)開催

### 『グリオ—魂を奏でる楽士』(2012) オンライン上映&トークイベントのご案内

CEGLOSでは2月24日(土)14:00-16:30に、ドキュメンタリー映画『グリオ』のオンライン上映会を開催します。ジャズトランペッターでもある監督が、セネガルの世襲楽士グリオとともに新たな音楽表現をひらきつつ、彼らの歴史と現在を美しい音と映像で描き出します。上映後にはフォルカー・ゲッツェ監督を迎え、CEGLOS 研究員で音楽人類学者である米野みちよ教授とともにトークイベントを開催します。ぜひご参加ください。

#### GRIOT グリオ—魂を奏でる楽士

フォルカー・ゲッツェ監督 2012年

[www.griot-japan.jimdofree.com](http://www.griot-japan.jimdofree.com)

[日本語字幕版 原語はフランス語、マンディンカ語、ウォロフ語、英語]

#### 【ご参加方法】

Zoom と YouTube を利用したオンラインイベントです。

料金：無料

定員：80名

2月22日(木)までに以下の URL からご登録ください(定員を過ぎ次第、申込終了となります)。

<https://bit.ly/griot0224>

#### 【プログラム】

14:00 ご挨拶とご説明

14:10 オンライン上映

15:40 トークイベント(日本語、逐次通訳つき)

(16:30 終了予定)

#### 【トークイベントのスピーカー】

フォルカー・ゲッツェ (Volker Goetze)

アーティスト、映像作家、作曲家、トランペット奏者。ニューヨーク芸術基金(米国)でパネリストも務める。オーケストラなど大編成を含むジャズ演奏やアルバムをリリースする他、長編ドキュメンタリー映画を制作。また、NY市ハート島などを舞台に、VRを始めとするマルチメディアと音を融合させた総合芸術作品群を制作する。グリオであるアブライ・シソコ氏との共演では、iTunes フランスの世界・ミュージック・アルバム部門で1位

を収め、米国 PRI (パブリック・ラジオ・インターナショナル) など、欧米各国より各賞を受賞。最新作はコラやフラメンコギターと共演したアルバム『フラメンコラ』。  
[www.volkergoetze.com]

米野みちよ (よねの・みちよ)

静岡県立大学国際関係学部教授。音楽人類学者・移民研究者。23年間フィリピンに在住し、フィリピンの音楽文化・人々・社会の研究に従事。特に、先住民や移民など、マイノリティの人々の国家や近代性とのかかわりかたを、彼らの音楽活動などを通して、調査。フィリピン大学准教授、東京大学准教授を経て、現職。共編著書に *Unsilent Strangers: Music, Minorities, Coexistence, Japan* (2023) など。

**司会・ファシリテーター：**

冨澤かな (静岡県立大学 CEGLOS) ・ 森一淑 (『グリオ』日本語字幕作成者)

**主催：**

静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センター (CEGLOS)

**問い合わせ：**

冨澤かな [t-kana@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:t-kana@u-shizuoka-ken.ac.jp)

# GRIOT

GRIOTMOVIE.COM

"A MUST SEE FILM!"

— THE AFRO NEWS

"STUNNINGLY BEAUTIFUL!"

— THE GLOBE AND MAIL

## UNCOVER A MUSICAL REVOLUTION

THAT COULD ALTER WEST AFRICA'S CULTURAL LANDSCAPE FOREVER

オンライン上映&トークイベント

**グリオ** 魂を奏でる楽士 (2012, フォルカー・ゲツツェ監督)  
[www.griot-japan.jimdofree.com](http://www.griot-japan.jimdofree.com)

日時: 2024年2月24日(土) 14:00-16:30

静岡県立大学CEGLOSではドキュメンタリー映画『グリオ』をオンライン上映します。ジャズランペッターでもある監督が、セネガルの世襲楽士グリオとともに新たな音楽表現をひらきつつ、彼らの歴史と現在を美しい音と映像で描き出します。上映後にはフォルカー・ゲツツェ監督を迎え、CEGLOS研究員で音楽人類学者である米野みちよ教授とともにトークイベントを開催します。ぜひご参加ください。

### 【ご参加方法等】

- ・ZoomとYouTubeを利用したオンラインイベントです。
- ・2月22日(木)までに以下のURLまたは右側の二次元コードからご登録ください。  
<https://bit.ly/griot0224>
- ・料金: 無料      ・定員: 80名
- ・日本語字幕版(原語: フランス語、マンディンカ語、ウオロフ語、英語)、トークパートは逐次通訳あり

主催: 静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センター(CEGLOS)  
問い合わせ: 富澤かな [t-kana@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:t-kana@u-shizuoka-ken.ac.jp)



2023-14

2024年3月27日(水)開催

グローバル・スタディーズ研究センターStudy CIRcle2023-2024 成果報告会

#### 開催概要

静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センターでは、学生一人ひとりが自分の興味に従って研究を深めるプロジェクト、Study CIRcleを行っています。今年度は3名の学生が参加し、自らの関心についての探求を深めてきました。Study CIRcleの特徴は、学生の興味関心に応じていただける外部の先生方をお招きし、学生に直接、レクチャーしていただくという仕組みです。レクチャーを通じて、一段と学びを深めていきます。また、学生に対しては、卒業生と現職教員がメンターを務め、適宜アドバイスをしています。

#### 日時

2024年3月27日(水曜日) 19時00分～20時30分

#### 場所

オンライン (Zoom)

#### 報告者・報告テーマ

○太田あゆみさん (国際関係学部4年)

「ヨーロッパにおけるミュニシパリズムと日本におけるローカル・イニシアティブ」

内田聖子さんの講演をもとに、現代の社会が抱える問題ーグローバル化が地域経済に与える影響と社会に広がる格差ーを解決するために近年ヨーロッパを中心に広がる「ミュニシパリズム」について、パリとベルリンの例を通して報告する。最後には、西東京を中心に広がる日本版ミュニシパリズム「ローカル・イニシアティブ」についても触れる。

○海老名香帆さん (国際関係学部4年)

「家族による生きづらさを抱えた若者はどのように地域共同体で回復するのか」

機能不全家族による生きづらさとその影響から回復するための要素を探求する。自身の経験から仮説を立て岡田さんの講演での語りを分析して検証する。

○佐野麻悠子さん (国際関係学部1年)

「地方と在日外国人～ローカルシティズンシップを参考に～」

近年在日外国人は、高齢化社会が進行している日本において大切な存在となりつつある。そんな彼らは、どうしたら日本で日本人と共生していけるのだろうか？

#### プログラム

19時 本日の趣旨



- 5分 報告（太田）
- 20分 質疑応答
- 25分 SVからのコメント（両角）
- 30分 報告（海老名）
- 45分 質疑応答
- 50分 SVからのコメント（斉藤）
- 55分 報告（佐野）
- 20時10分 質疑応答
- 15分 SVからのコメント（津富）
- 20分 報告者からの振り返り
- 25分 挨拶（石井）

Google フォームからお申し込みください。

<https://forms.gle/RVc6abuo9bszRxov8>

**【締切：3月24日（日曜日）】**

当日までに、登録されたEメールアドレスに、ZoomのURLをお送りします。

2023-15

2024年3月8日（金）開催

「1930年代フィリピン映像資料に見る日本製品——松井家資料「広告の実験」の上映とディスカッション」開催報告

CEGLOSが協力した研究会が、関係各企業の皆様にもご出席いただき、盛況のうちに終わることができましたので報告いたします。

イベント題目：1930年代フィリピン映像資料に見る日本製品——松井家資料「広告の実験」の上映とディスカッション

日時：3月8日金曜日 18:00～19:30

場所：東京大学 駒場キャンパス 18号館4階コラボレーションルーム2

コメンテーター：

清水 剛（東京大学大学院総合文化研究科 教授）

専門は経営学。近著に『感染症と経営：戦前日本企業は「死の影」といかに向き合ったか』（2021）がある。

村山英世（記録映画保存センター 理事）

記録映画アーカイブプロジェクトなどに従事。『カメラを持った男たち—関東大震災を撮る』（2023）は、2023年キネマ旬報ベストテン文化映画部門1位受賞。

科研プロジェクト「映像と写真から再構築する米国統治下フィリピンの日本人移民：記憶、表象、関係性（21K12425）」では、20世紀前半のフィリピンで複数の大型百貨店の運営と貿易に携わっていた、大阪貿易会社創業家・松井家の関連資料（映像、写真、文書等をデジタル化したもの）の整理と分析を行い、多様なフォーマットとリンクできる独自のデータベースシステムの開発を行なっています。特に51本の16ミリ映像は、1920-30年代のフィリピンにおける日系人コミュニティや、フィリピン各地の風景や人々、当時の日比間の物流や人の移動などを映し出す貴重な資料となっています。

当日は、当時フィリピンへ輸出されていた日本の製品を紹介する映像（ca.1933）を上映します。企業関係者や研究者を招き、映像を見ながら、自由に語り合う場を創出・提供することを目的としています。

登場する商品例：蚊取り線香（大日本除虫菊）、醤油（キッコーマン）、味の素、缶ミルク（明治乳業）、チョコレート（明治製菓）、リボン印シトロン（サッポロホールディ

ングス)、ビール (アサヒビール)、ウィスキー (サントリー))、日本酒 (白鶴) ほか

主催：科研プロジェクト「映像と写真から再構築する米国統治下フィリピンの日本人移民：記憶、表象、関係性 (21K12425)」(代表 米野みちよ 静岡県立大学)

協力：岡田泰平研究室 (東京大学)・静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センター (CEGLOS)



撮影：野久保雅嗣



撮影：野久保雅嗣



撮影：野久保正嗣



撮影：野久保正嗣



撮影：野久保正嗣



撮影：野久保正嗣

# 1930年代 フィリピン映像資料に 見る日本製品

松井家資料「広告の実験」の上映とディスカッション

3/8金 18:00~19:30

東京大学 駒場キャンパス 18号館 4階コラボレーションルーム2

(東京都目黒区駒場 3-8-1)

詳細位置はこちら▶ [https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam02\\_01\\_17\\_j.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam02_01_17_j.html)

科研プロジェクト「映像と写真から再構築する米国統治下フィリピンの日本人移民：記憶、表象、関係性(21K12425)」では、20世紀前半のフィリピンで複数の大型百貨店の運営と貿易に携わっていた、大阪貿易会社創業家・松井家の関連資料(映像、写真、文書等をデジタル化したもの)の整理と分析を行い、多様なフォーマットとリンクできる独自のデータベースシステムの開発を行なっています。特に51本の16ミリ映像は、1920-30年代のフィリピンにおける日系人コミュニティや、フィリピン各地の風景や人々、当時の日比間の物流や人の移動などを映し出す貴重な資料となっています。当日は、当時フィリピンへ輸出されていた日本の製品を紹介する映像(ca.1933)を上映します。企業関係者や研究者を招き、映像を見ながら、自由に語り合う場を創出・提供することを目的としています。

## ▶コメンテーター

清水 剛 (東京大学大学院総合文化研究科 教授)

専門は経営学・経営史学。近著に『感染症と経営：戦前日本企業は「死の影」といかに向き合ったか』(2021)がある。

村山 英世 (記録映画保存センター 理事)

記録映画アーカイブプロジェクトなどに従事。『カメラを持った男たちー関東大震災を撮る』(2023)は、2023年キネマ旬報ベストテン文化映画部門1位受賞。

参加無料

お申し込みは  
こちらから

<https://x.gd/mDX5h>



申し込み締め切り日 2/28水



## 登場する商品例

蚊取り線香(大日本除虫菊)、  
醤油(キッコーマン)、  
味の素、  
缶ミルク(明治乳業)、  
チョコレート(明治製菓)、  
リボン印ントロン(サッポロホールディングス)、  
ビール(アサヒビール)、  
ウィスキー(サントリー)、  
日本酒(白鶴) ほか

お問い合わせ [okadataihei★g.ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:okadataihei★g.ecc.u-tokyo.ac.jp)

[michiyoreyes★gmail.com](mailto:michiyoreyes★gmail.com)

080-5528-2545

主催：科研プロジェクト「映像と写真から再構築する米国統治下フィリピンの日本人移民：記憶、表象、関係性(21K12425)」  
(代表 米野みちよ 静岡県立大学)

協力：岡田泰平研究室(東京大学)・静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センター(CEGLOS)